

むらい

げんさい

村井 弦齋

文久3年（1863）～昭和2年（1927）

吉田城内宮下町（現 市内今橋町）出身



平塚市博物館蔵

吉田藩士の子として生まれた彼は、一家で東京へ移住、東京外国語学校中退後、郵便報知新聞（読売新聞の前身のひとつ）に入社、同紙の発行部数増に大きく貢献するとともに、多くの小説を執筆した。明治36年（1903）、同紙に和食・洋食・中華のレシピを載せた恋愛グルメ小説「食道楽」の連載を始めた後、単行本化されるとベストセラーになり大ブームとなった。余生を送った現在の神奈川県平塚市の住居跡（村井弦齋公園）周辺では、毎年秋に「村井弦齋まつり」が開催されている。

代表作『食道楽』等が
好評を博した明治を
代表する新聞小説家